

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2331号 2016年10月31日 (月曜日)

《 final 9 days for U.S presidential race 》

今週は米 FOMC が開催され、同国 11 月の雇用統計も発表になる週です。FOMC は 1 - 2 日の両日、雇用統計は週末金曜日 4 日です。しかしそれよりも「長かった米大統領選挙が最後の追い込みの一週間余になった」と言うことの方が、人々の関心を引くかも知れない。既にその兆候は先週末に出ている。米大統領選に絡む一つのニュースがニューヨークの株を一時乱高下させ、ドルを下落させた。一番大きく動いて目立ったのはメキシコ・ペソで 1% 以上下げた。

マーケットを震撼させたのは、FBI (米連邦捜査局) のコミー長官が一部の議会指導者に送った数行のごく短い通知です。「(クリントン候補が国務長官時代に公的メールをプライベートなメールサーバーで授受していた問題に関して) 新たなメール群が発見されたのでその調査を開始した」という内容。ごく短い通知で、当該メール群が重要なものであるかも、ましてや起訴に至る事実が判明するかも不明、というもの。

なぜ発見されたのか。米メディアが伝えるところによると、新たなメールは別の事件の捜査で見つかったという。陣営幹部フマ・アベディン氏の夫アンソニー・ウィーナー元下院議員が起こしたわいせつ事件 (15 歳の少女を誘ったとされる) を巡り、押収したウィーナー氏の電子機器にメールが保存されていたという。出所はかなり怪しい事件だ、ということだ。

マーケットもそうだが、アメリカの政界、メディアもこれには驚愕した。通常 FBI は、特に大統領選挙の前においては政治に関与することを避ける。それがアメリカ政界の不文律となっていた。実際にコミー長官から議会への通知を事前に相談された米司法省の高官は、こぞってそれに反対したという。「政治への関与」を疑われるし、過去に前例がない。そもそも重要かどうか、ましてや起訴に至るか分からない。かつ、大統領選挙の投票日 (11 月 8 日) の直前だし、それ以前に調査が終わることはないと判断されたからだ。

しかしコミー長官は自らの判断として議会に調査再開を通告した。それはコミー長官が共和党員であるとか、FBI、または FBI 長官として有るべき姿を頭に描いていたのか。それは不明だ。同長官は今年 7 月に「(当時のクリントン国務長官が公務に私的メールサーバーを使っていたことは) 極めて不注意だが、起訴すべきような案件ではない」と結論付けていた。つまり同長官が自ら終止符を一応打った形となっていた。それを自ら再び調査・捜査を開

始ずるとして、再びこの問題をフロントラインに持ってきてしまった。

当然だがクリントン候補は、

「選挙直前のタイミングでこのように実体のない情報を公開するのはおかしい」

「前代未聞の、深く憂慮すべき事態。有権者には事実の全容を知らせるべきだ」

と非難した。その主張には一理あるし、マスコミや議会関係者の間でもコミー長官の意図をいぶかる人が多い。コミー長官は議会に短い通知を出したあとは何も声明らしきものは発表していない。しかしその意図に関係なく、確実にになったのは次の二点だ。

1. クリントン候補は FBI が調査を再開した中で投票日を迎え、当選しても「FBI が調査中」という中で次期アメリカ大統領、そして就任を迎える可能性が高い
2. 恐らく米共和党は大統領選挙で負けても、上下両院の一つで多数を占めれば（下院の可能性が高い）、クリントン大統領の最初の4年を通じてこの問題を繰り返し持ち出し、対クリントンでの最大の政治的武器にするだろう

ということだ。

《 leads to weak next president 》

それは仮に「クリントン大統領」が誕生しても、「弱い大統領」が生まれることを意味する。それはマーケットにとっても懸念材料だろう。だから金曜日にこのニュースの直前には75ドル高程度上げて推移していたニューヨーク・ダウは、この報道で一気に下げて80ドル近い下げを演じた。

その後「それでもクリントンの大統領選挙での優位は変わらないし、この問題を引きずった状態でも彼女が大統領になるだろう」との見方が強まったことから、ニューヨークのダウは木曜日引け比8.49ドル安に戻した。引値は18161.19ドル。為替も動いて、ニュースの前は105円台で推移したドル・円は、ニューヨークの引けで104円台の後半。為替市場で大きく動いたのはメキシコ・ペソで1%近く下げた。アメリカとメキシコとの国境に壁が作られる可能性が高まった、との判断だ。今回の米大統領選挙では、メキシコ・ペソの動きを見れば「どちらが有利か」は一目瞭然だ。つまり指標的存在。

喜んだのは劣勢で最終盤を迎えたトランプ候補だ。挽回できる最後のチャンスとなるかもしれない材料が降って沸いたと見た。「アメリカのシステムはそれほど不正では無いかも知れない」とまでコミー長官を持ち上げた。しかしマーケットの見方は「依然としてクリントン有利」で変わっていないと思われる。ニューヨークの株が最後にもちあい圏まで戻したのはその証拠と言える。

筆者もクリントン優位は変わらないと見る。むしろ「勝負あった」と気が緩んでいたク

リントン陣営を引き締める可能性がある。クリントン候補にメールサーバー問題があることは以前から良く知られていたし、トランプが支持率を下げているのは、彼自身に問題があるからだ。金曜日の段階では、「当選に必要な選挙人の数270をクリントンは確保した」との報道もあった。それが変わるのかが今週の一つの焦点だ。

共和党はこの問題が発覚する前から、公務での私的メールサーバー利用は、クリントンが当選しても今後4年は同氏の攻撃材料に使えると踏んでいた。つまり事情はそれほど大きく変化したわけでは無い、とも言える。しかし長い目で見ると、今回は相手が相手なのでクリントンが当選するにしても、「クリントン大統領の再選」、つまり任期が8年に延びる可能性はやや小さくなったとも言える。

しかし繰り返すが、「クリントン勝利」を世界中がほぼ織り込んでいただけに驚きだった。かつ今後数年間のアメリカ政治の「不安定要因」がくっきりと浮上した。仮にトランプ候補がこのニュースなどもあって最終盤に迫いつき、そして大統領選挙を勝ったとしたら、それはそれでアメリカ政治の先行きは極めて不安定になる。しばらくは「重い問題」であり続ける可能性が高い。

- - - - -

今週のFOMCでは政策変更はほぼ予想されていない。「あったとしたら引き上げ。しかしその確立は10%」というのがマーケットの大方の予想だ。その分、12月の利上げの可能性は75%という見方。

その12月の利上げに影響があるとしたら、週末の雇用統計だろう。大方の見方は非農業部門就業者数で17万5000人前後の増加という見方が多い。それを上回れば、12月利上げの可能性は高まる。もっとも12月のFOMCは開催日が13-14日なので、当然12月の頭に発表になる米11月の雇用統計の方がより大きな材料、直近の数字となる。

数字と言えば、先週発表された米7-9月のGDP統計は予想の2.5%をかなり上回る2.9%になった。米経済はしっかりしていることになる。もっともその一番大きな理由は「中国への穀物輸出の急増」だったとされる。当該穀物に関しては大豆との見方が有力だ。もっとも2.9%という伸び率そのものは米経済の成長率として最近にない高さであり、それは「12月は利上げ」説を強めた。

今週は韓国も大変です。大統領府の重要文書がチェ・スンシルという大統領の知人女性に非合法的に流れていた可能性、そして同氏の作った二つの財団の資金集めに大統領府が権力を行使し、その集まった資金をスンシル氏が流用した疑い。どちらも朴大統領の政治生命を脅かし、最終的には弾劾なり辞職なりに大統領を追い込む可能性がある。既に韓国メディアや国内政治状況は危機的になっており、今週は韓国の政治情勢に大きな変化が生まれる可能性がある。その時はやや円安か。

欧州から帰国したチェ・スンシル氏は今日午後3時に検察に出頭する予定。その後記者会見も行うとされる。今回の事件の一つのヤマ場だ。

- - - - -

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|---|
| 10月31日（月曜日） | 9月鉱工業生産
9月商業動態統計
9月建設機械出荷額
9月自動車生産
9月住宅着工
ユーロ圏7～9月期GDP速報値
ユーロ圏10月消費者物価
米9月個人消費支出
米10月シカゴ購買部協会景気指数
金融政策決定会合
休場=インド |
| 11月01日（火曜日） | 金融政策決定会合の結果発表
10月新車販売
黒田日銀総裁会見
9月末税込実績
10月百貨店各社の売上高速報
中国10月PMI
中国10月財新製造業PMI
米10月ISM製造業景況感指数
米9月建設支出
米10月新車販売
米FOMC（～2） |
| 11月02日（水曜日） | 10月マネタリーベース
31日時点の給油所の石油製品価格
10月消費動向調査
独10月失業率
米9月ADP雇用レポート
米FOMCの結果発表 |
| 11月03日（木曜日） | オーストラリア9月貿易収支
ユーロ圏9月失業率
米新規失業保険申請件数
米7～9月期労働生産性指数
米10月ISM非製造業景況感指数
米9月製造業受注 |
| 11月04日（金曜日） | 9月オーストラリア小売売上高 |

米 10 月雇用統計

米 9 月貿易収支

今朝 CNBC で読んだ「Something 'extremely rare' is happening in the market」という記事は最近のマーケットを考える上で興味深かった。お読み下さい。

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。ちょっと寒かったですね。日曜日の朝は筑波山神社の近くにいたのですが、手袋が欲しいくらいで、事実登山を目指す多くの方は手袋をしていました。その後国営ひたち海浜公園にコスモスやコキア（和名をホウキグサ）を見に行っただのですが、そこも寒かった。驚いたのは非常に多くのアジアの方々が来ていたこと。なにせ入場料は国営なので確か大人一人 500 円くらい。炊飯器より安い。しかし来て貰えるのは良いことです。

- - - - -

ゴルフの松山選手は準メジャーの戦いをぶっちぎりで優勝、テニスの錦織選手は優勝を逃して 2 位。まあでもそれぞれ活躍している。松山はちょっと世界でも抜けてきた感じ。錦織はサーブが... 世界の壁は厚いという感じ。二人とも暫く日本の我々には気になる選手であり続けそうです。

プロ野球は日本シリーズが終了。最後の試合はちょっと残念でした。本来はあんなに大差が付くはずではない試合でした。あとで試合を振り返りながら、『ベンチからは遠くで見えていなかったのかな... テレビに大寫しになったジャクソンの顔には「俺はもう投げたくない。自信ないな...」と書いてあったのに』と思いました。実際にそんな話をテレビの前で皆としていたのです。

それは彼がレアードに満塁ホームランを浴びる前です。なにせ「ツーアウトでランナーなし」から満塁になって、そして押し出し、さらにピッチャーにセンター前に運ばれ.....。代え時はあまたあった筈です。点が入る前にも、1 点の時も、そして 2 点の時も。しかし緒方監督は動かなかった。あれはもう戦略というより性格でしょう。だからちょっと残念なんです。4-4 であれだけ緊迫して面白かった試合が、完全に壊れてしまった。彼のインタビューもそうですが、栗山監督の采配はよく配慮されている。戦略的に、心理的に。

中田の打席の時にネクストバッターボックスに大谷を立たせたのには、笑いました。そりゃ広島ベンチ、そしてジャクソンにはプレッシャーになる。本当は打たせるつもりはなかったのに。うまいと思いました。案の定、1 点とったら、とっとと引っ込めた。そして出てきたのが、投げていた投手のバースです。彼は第三戦にもヒットを打っている。肝心なところで。大谷を引っ込めたのは依然として栗山監督は「第 7 戦」を考えていたからでしょう。それとあるとしたらバースの最近の投球の素晴らしさと、運と打撃。

それが見事に当たって彼はヒット。2 アウトから 2 点リード。この段階では絶対にジ

ジャクソンを代えるべきだった。本人に自信もなかったし、気力もなかった。そのずっと前にもジャクソンを代えるチャンスはあった。岡にヒットを打たれた時もそうだった。このシリーズで日本ハムには満塁ホームランが二本出た。西川とレアードに。それだけで8点。広島は昨日の試合で丸がソロで打ったが、やはりハムに比べれば出ていない。本数も少ないし、肝心の所で「大きいの」を打者が打っていない。その代表は新井ですが、彼だけを責められない。

実は私は、今シーズンを見ていてずっと思っていました。今回の広島もそうですが、セリーグの打者は「しっかりバットを振れていない。チャンスになればなるほど」と。別に柳田や大谷ほど振らなくても良い。しかし昨日の丸とレアードのHRを比べてもセリーグの打者のHRとパリーグの打者のHRの違いが分かる。パの選手の方のHRが遙かに遠くに飛んでいると思う。多分そんな統計はない。セリーグ全選手の全HRの飛距離とパリーグ全選手の全HRの飛距離の比較。私ははるかにパリーグの打者のHRの方に飛距離が出ていると思う。それは「パリーグの打者がしっかり振っているからだ」と思う。柳田や大谷は代表選手と言うだけです。

試合が決まって面白くなくなったとき、私は「日本シリーズ 優勝チーム」で検索し、過去の優勝したチームを改めて眺めていました。そして2007年から今年まで10年間でセリーグのチームは3回しか日本シリーズを制してないことに気がついた。「少ない」とは思っていたが、3-7とは思わなかった。パリーグの優勝7回にはいろいろなチームが詰まっている。ソフトバンク、楽天、ロッテ、西武。対して過去10年でセリーグで日本一になったのはたった2チームです。巨人と中日。そしてその中日は今年是最下位。去年のヤクルトも、そして今年の広島も第7戦を戦うことなく終戦。今日の「黒田一大谷」を楽しみにしていたのに。

セリーグは野球を変えないといけない...と改めて思う。最後に日本一になれない野球では、いくらリーグの中で「神ってる」としてもそれまでです。セリーグのチームと選手にはそれを自覚して欲しい。で、日本のプロ野球がもっともっと面白くなって欲しい。

それでは皆様には良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》